令和５年度 ひょうごフードサポートネット連携体制推進会議
〔議事概要（公開用）〕

日　時：令和５年 10 月 16 日（月）10:30～12:00
場　所：ラッセホール　５階　サンフラワー

１　開会あいさつ（兵庫県福祉部）

皆様ご多忙の中、ひょうごフードサポートネット連携体制推進会議にご出席をいただきまして、ありがとうございました。

このフードサポートネットは、本年の 2 月に立ち上げ、このような連携会議の場も設けました。そこでこのフードサポートネットをプラットホームにしたような形での支援のあり方などについてもご提言をいただいたところです。今日は、このフードサポートネットに賛同し、新たに入っていただいた団体の皆様方にもお越しいただき、支援事例や取り組み事例をご紹介いただくこととしております。このフードサポートネットに広がりを持たせるため、これから取り組んでいきたいと思っており、例えば、こういった取り組みをしてます、食を通じた支援してます、この地域ではこういうことやられてるんだということを、新聞で見て初めて知るところもあります。市町や市町社協が把握している取り組みをもっと積極的に情報収集しなければならないと思っておりますし、それをまた、ネットワークの広がりにつなげていきたいと思っております。

また、今日ご報告いただくような取り組み事例も、可能な限り皆様と共有させていただいて、こういう取り組みをされているということを県内全体で見ていただき、新たにうちでもやってみようかというような形で、ネットワークをさらに広げていく。そうしたことを目指して、これからもっと力を入れて頑張っていきたいと思っております。今日もいろいろご意見いただければと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

２　兵庫県からの報告（兵庫県地域福祉課）

〔報告〕

別添資料１のとおり

〔質疑等〕

松端）アウトリーチ推進事業の実績は。

県地域福祉課）9 月に記者発表したところで、これから頑張っていきます。

松端）ネットワークを作ってその下支えするような取り組みですので、効果が出るまでに時間がかかるかと思いますが、その土壌を作るという意味では重要な取り組みかと思います。

３　団体からの説明

（１）西宮市社会福祉協議会（共生のまちづくり推進課）

〔説明〕

別添資料２のとおり

〔質疑等〕

松端）西宮市社協の取り組みということで、もともと社協は連携や協働とかプラットフォームを作るような役割があるので、社協のそもそもの機能をベースに置いた活動ということですね。当大学生もいろいろとお手伝いさせていただいています。

食料に困っているということは、幅広く生活面で色々な課題を抱えているので、食料をお届けすることは当然重要ですが、それプラス、そこから生活そのものを支える、さらには、支え合う関係づくり・地域づくりを行うことが大きな目標だと感じました。

（２）フードバンクあこう

〔説明〕

別添資料３のとおり

〔質疑等〕

松端）赤穂市はさきほどの西宮市と比べると人口の規模や地域性も大きく違いますね。人口も 10 分の 1 ぐらいですし。いただく方も届ける方も近く、衣類や毛布も含め、食事が必要な状況にある方は、その他いろんな点で不自由されているので、目の顔の見える関係があることは良いことですね。

一方で偏りというか、農作物の場合は、季節によってドカンと入ったり、全然なかったいうことがあったりするのですね。

また、食材といっても農作物中心になるのでということなので、近隣のフードバンクはりま等と連携しながら、食を通じて繋ける活動が身近にできていると感じました。

（３）マックスバリュ西日本株式会社（地域連携・環境社会貢献部）

〔説明〕

別添資料４のとおり

〔質疑等〕

松端）兵庫県内での取組はこれからというところですね。県内には 94 店舗ありますが、どのように拡げようとしているのですか。

ﾏｯｸｽﾊﾞﾘｭ）各市町に出向き、フードバンク活動をやりませんかと働きかけているのですが、色々な諸事情がお有りのようで、なかなか話が前に進まないことが多いです。

今回こういう場に出席させていただいて、各市町に一緒に活動しましょうともっとＰＲしていただきたいと思っています。

松端）お客様から広く集めたものをお配りする取組は、まさにコミュニティーに根差した活動として 94 店舗がうまく機能すると、かなり大きいと思います。マックスバリュの企業価値向上にも繋がりますね。

（４）ＮＰＯ法人場とつながりの研究センター

〔報告〕

別添資料５のとおり

〔質疑等〕

松端）非常に幅広い観点からのお話であったかと思います。食料支援にあたって配送するための費用をどうするか、食材が集まってきたとしても、それを届ける方法が課題ということですね。

４　意見交換

松端）先ほど場とつながりの研究センターの「世界は６人で繋がっている」という話はスモールワールド理論と言えますが、ネットワークには大きく分けて二つのタイプがあって、「強くて狭い繋がり」と「ゆるやかだが外に開かれている繋がり」があり、このフードサポートネットでは、今まで繋がりのなかった団体同士を繋げたり、場とつながりの研究センターの報告にあった運搬費をどう確保するかといった課題を確認して、知恵を出し合い新たな取り組みを生み出しいく取組と言え、ブリッジチームとして外に開かれた関係をいかに作っていくのかが大事なことだと言えます。県社協としてはいかがでしょうか。

県社協）様々な発表をお聞きしていると、私も前職は行政でしたが、行政は担当者によって取組姿勢に差が出てくる場合があると感じており、フードサポートの取組についても行政が行革で職員がどんどん減っている中で、所管部署がすんなりと決まらないこともあり、民間同士の繋がりの方が返って早い場合があるとも感じています。

行政も上手に巻き込めれば良いのですが、担当が変わるとトーンダウンすることあるため、熱心な自治体には最初は絡んでもらいながらも、ずっと任せていくと上手くいかなくなることもあるので、民間同士の繋がりをどうやって持続的に行っていくかも大事かなと思いました。

松端）場とつながりの研究センターの例でいうと、所在は三田市だけど、業務エリア的には神戸市と西宮市の北部も入っており、そのため兵庫県や各市町の事業が個別バラバラにあったりするので、そういう情報をうまく共有できて、一つの事業にうまく乗っかるとか、連携して他の活動もでき

るような事例紹介や演習などが有っても良いのではと感じました。

市町社協）丹波市社協ではフードドライブの整理や仕分けなどの作業について、子ども若者サポートセンターの通所者に協力いただいている。就労のきっかけになればと、1時間500円の費用弁償をしています。

また各世帯への箱詰め等につきましては、県立氷上高校の生徒さんにも協力いただいており、いろいろな方にご支援をいただいています。

企業の協力としては、コープなどと協定を結んでいますが、丹波市には空き家が多くありまして、資源回収業者によると、電子レンジとか小型冷蔵庫とか、まだまだ使える家電がたくさんあるということで、それを社協で預かって、それを活用できる方にお渡ししています。一つの取組例ということで発言しました。以上です。

松端）電化製品や生活雑貨をサポートすることも重要ですね。食材と併せてそうした生活に必要なものを届けることは有効だと思います。

また、子ども若者サポートセンターに通うひきこもりの方達をフードサポート活動に参加いただいているということでしたが、子どもの不登校や引きこもりの方が相当な数になっており、なかなか表に見えてこないのですが、この活動を通じて、地域が引きこもり問題に気づいたり、或いは引きこもりの方が上手く社会参画できるような仕組みとなっており、大変興味深く感じました。

神戸の冬を支える会）昨年度兵庫県の生活困窮のプラットフォーム整備事業の補助金を使い、県下12町で食品の提供を予定していました。特に香美町と新温泉町ですが、役場や社協に食品を用意していたのですが、電気が止まっているということがあり、急遽その補助金を使い、カセットコンロやボンベを購入して、貸し出しという形で対応しました。そういった対応も必要になってくると思っています。

それから、複数の自治体から補助金をもらうと、その金額の仕分けが面倒になります。神戸市の補助金を利用して買った食品を三田の人に渡していいのかどうか、というような問題や、会計検査院の検査が入ってくることもあり、非常に難しいです。かなり労力をとられてしまうので、できれば兵庫県で一括に補助金を出していただき、これは何に使ってもいい、自治体を問わないといった補助金があってもいいのかなと思います。必要なところが、必要に応じて活用できればと思っています。

それと、人口の多い地域と過疎地域では取組みも自ずと異なり、今日発表いただいたケースと同じようにはできないところもあると思うので、その地域性を埋めるような材料があればと思っています。

私は、郡部の12町を主に担当しており、佐用町、上郡町、新温泉町、香美町といった都会から離れた地域になるので、その辺をどのように手当で

きる仕組みができるかということを悩んでいるところです。

松端）地理的な距離というのは大きいですね。新温泉町はほぼ鳥取ですものね。

神戸の冬を支える会）毎週、新温泉町か香美町に神戸から通っています。まず、とりあえずそこにいることに意味があるという思いから始めています。そこからいろんな繋がりが生まれていけばと期待しながらも、新温泉町の中でも距離が離れていて、例えば新温泉町から県域内の大都市の豊岡に出て行くだけでも小一時間かかってしまうことを考えたときに、やはりその辺が、この阪神間や姫路地域での距離感とは全く違ってくると思います。

松端）地理的な隔たりをどう解決するかという課題が 1 つありますね。
　それから、兵庫県の事業や各市町の事業をうまく情報共有しましょうとさきほどありましたけど、さらに一歩進んで、それを県に一元化して紐付きではないようにするのも、できると面白いですよね。

神戸の冬を支える会）補助金を受け取る側としては、その辺がもう少し簡単にならないかと思います。しかも、今年 10 月から税制度も変わり、それもまた作業が増えるということを考えたときに、もう少し民間支援団体が動きやすくしないと、事務経費が嵩んでしまうばかりだと思います。

松端）行政の区割りではなく、生活圏域で考えることができると良いですね。
　それと、地理的な隔たりをどうクリアしていくかという話もあります。

コープこうべ）フードバンクあこうの、地域の助け合いを育み調整するというお話は本当に素敵だと思いました。
　我々は、生活協同組合ですので、消費者に助け合いや寄付を訴えかけていくという役割を発揮していかなければならないと思っています。最近まで神戸で組織をあげてフードドライブキャンペーンをしていましたが、10 日間で大体 8 トンぐらい集まりました。年間 44 トンぐらいになります。キャンペーンで盛り上げて見える化をしていくと、やはり消費者の方も寄附してみようかなとなります。そういった働きかけをしっかりと消費者に向けてしていかなければならないと、改めて感じました。マックスバリュも兵庫県でそうした働きかけを一緒に盛り上げていけると、すごく心強いと感じました。
　今日は「繋がり」という言葉がたくさん出ましたが、我々はどちらかというと「もったいない」という思いで消費者に向けて発信していますが、「ほっとかへん」という団体とこうした機会を通してしっかりと繋がり、「もったいない」と「ほっとかへん」をしっかり兵庫県内に広げていきたいと改めて思いました。

食支援を通じてネットワークがすごく広がった経緯があり、このフードサポートネットには大きな可能性があると思いながら参加させていただいておりますので、ぜひ引き続きお願いしたいと思っております。

松端）コープとマックスバリュは商売敵とはいえ、この範囲に関しては連携していただけると心強いと思います。ぜひよろしくお願います。

ﾌｰﾄﾞﾊﾞﾝｸ関西）改めて、兵庫県は広く、地域性もあるということを感じました。

また、食支援が最終目的ではなく、それを通じて繋がりを作り、色々な世帯を根本から支えていくという仕組みが一番大事なのかなということを改めて思いました。

私たちフードバンク関西は食を支援する中間支援的役割を担っており、私たちをどう使ってもらうかという点で、フードサポートネットには期待しています。

民間の団体同士の方が繋がりを作りやすいのではないかというお声もいただきましたが、各団体は点在していますし、情報量としては行政や社会福祉協議会の方がたくさん持っていると思いますので、ぜひ団体同士を繋いだり、情報発信というところで、行政や社会福祉協議会のお力添えをお願いしたいと思っております。

県社会福祉士会）当会でヤングケアラーの相談窓口をしているのですが、18 歳未満の方であれば行政窓口につなげるのですが、18 歳を超えた後にどこへ繋げるかということが現在の大きな課題だと感じています。子ども食堂なども 18 歳までであれば利用できるが、18 歳を超えると少ししんどいなとか。現在、本会の窓口で多く受けているのは（18 歳から 30 歳代前半までの）若者ケアラーですが、そういう方達をつなぐ先がなかなか見つけられず、ラインで細々と繋がっているというところです。

松端）基本的には支援が必要かどうかという視点で支援の対象かどうか見ていきましょうというのが大きな流れですが、実際の実務では 18 歳が 1 つの境目になっているということですね。

県社会福祉士会）大学生だと場合によればバイトしながらになりますし、仕事に就いてない人もいます。母親のケアを担っているのでパートがやっとという場合などは、経済的にも厳しいですし、孤立している方が多いです。

若者ケアラーになる前のヤングケアラーの時点から、社会との繋がりが薄く、友達との関係も薄く、友達に聞いたら解決するようなことも 1 人で抱え込んでしまい、コミュニケーションが難しいという若者も多いです。私たちも本人もこのままではあかんと思っているけれど、それをどうしたらいいかが本当に難しいです。

ラインや電話による相談受付により兵庫県全域をカバーしていますが、兵庫県は広く、こちらから行くということも中々難しいです。社協は全県にあるので、そこと繋がっていくのもいいのですが、なかなか温度差もあり、そこも少し難しいと思っています。

松端）今回はフードサポートということで食支援を切り口としていますが、そもそも生活課題は幅広いです。食に限定されることなく広くネットワークをどう作っていくかいう点が今後の大きな課題と言えます。県としてはいかがでしょうか。

県福祉部）本日は様々なご意見ありがとうございます。まだまだ課題があるということがよくわかりましたし、この食を通じた支援とは、それぞれの地域福祉の体制をどうするのかということに尽きると思っています。そうした中で、それぞれ活動されている地域団体の方々が活動しやすい環境をどうするか、それは、例えば県でしたら県から市町への働きかけをもっと強めるといったことができると考えております。それから、マックスバリュもなかなかもどかしい思いをされているということも、また改めてまたお聞かせいただいて、どこを押せば、市町が動くのか、我々もできる範囲でやっていきたいと思っております。

引き続き皆さんの思いを受けて頑張らないといけないという思いを強くいたしました。またよろしくお願いします。

松端）県でもちょうど、地域福祉支援計画を見直す時期でもありますので是非こういう点も盛り込んでいただければと思います。

県地域福祉課）本日は、松端先生につきましては、ファシリテーターありがとうございました。また参加者の皆様におかれましても、大変熱心にご議論いただきありがとうございました。

いただいた議論等を踏まえて、兵庫県においては、今回の会議は食支援という形ですが、それを切り口として地域福祉が抱える課題解決につなげていければと思っております。

それではこれをもちまして閉会させていただきます。本日はお忙しいところ大変ありがとうございました。